

『美術研究』総目次
『美術研究』掲載図版総目次
『保存科学』総目次
『芸能の科学』総目次
東京文化財研究所所蔵 “Bulletin of Eastern Art” 総目次
東京文化財研究所所蔵刊行物一覧
歴代名誉研究員一覧
職員名簿
東京文化財研究所所蔵資料統計
閲覧者数統計
機構の変遷
定員構成の変遷
予算
土地建物の変遷
関係法規（抜粋）

所蔵目録出版・バーコード化・広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（*③情05）

『東京文化財研究所年報』『東京文化財研究所概要』『東文研ニュース』の刊行は、所蔵目録出版・バーコード化・広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（③情05）の一環として実施した。詳細は、63頁を参照。

平成18年度日本美術年鑑 刊行事業・出版事業「美術研究」(⑥美04-07-2/5)

『日本美術年鑑』

日本美術年鑑は、わが国の各年の美術活動と美術研究・批評の状況を記録した刊行物である。美術部では当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所が1936（昭和11）年から始めた『日本美術年鑑』の編集を引き継ぎ、刊行を継続してきた。2002（平成14）年において、収録すべき情報の精選と分類の見直しをはかったが、今年度刊行した平成18年版においても、その方針を引き継ぎ編集した。平成18年版は、下記のような構成をとり、B5版396ページとなった。

2005（平成17）年美術界年史

美術展覧会（企画展、作家展、団体展）
美術文献目録
定期刊行物所載文献
美術展覧会図録所載文献（企画展、作家展）
物故者

『美術研究』

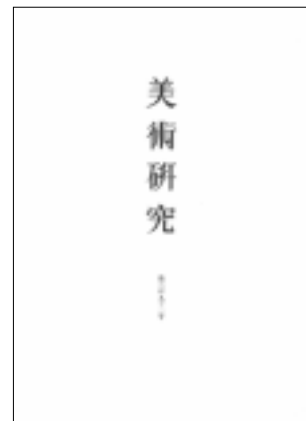
1932（昭和7）年1月、東京文化財研究所の前身である美術研究所の初代所長・矢代幸雄の提唱により第1号を刊行。以来、約75年にわたり、日本・東洋の古美術ならびに日本の近代・現代美術とこれらに関する西洋美術についての論文・図版解説・研究ノート・書評・展覧会評・研究資料を掲載している。年3冊刊



行。本年度は以下の通り392号、393号、394号を刊行した。出版に際し、東京美術商協同組合より助成を受けた。

『美術研究』392号（19年度第1冊／2007年9月刊行）

- （論文）皿井舞「醍醐寺薬師三尊像と平安前期の造寺組織（上）」
 （論文）江村知子「根生いの分限、絵描きへの道
 —尾形光琳を取り巻く環境と作品制作について—」
 （論文）塩谷純「川端玉章の研究（一）」
 （論文）蔵屋美香「絵画の下半身
 —一八九〇年～一九四五年の裸体画問題—」
 （展覧会評）浦上玉堂展（戸田禎佑）



『美術研究』393号（19年度第2冊／2008年1月刊行）

- （論文）勝木言一郎「古代の日本における阿弥陀浄土図の受容とその位相
 —法隆寺金堂壁画第六号壁と当麻曼荼羅をめぐる受容の本質とその言説の形成を中心に—」
 （論文）皿井舞「醍醐寺薬師三尊像と平安前期の造寺組織（中）」
 （論文）綿田稔「自牧宗湛（上）」
 （展覧会評）田中淳「昭和前期をめぐる三人の画家たち—小島善三郎・鶴岡政男・巖光—」
 （書評）根立研介『日本中世の仏師と社会—運慶と慶派・七条仏師を中心に—』（津田徹英）

『美術研究』394号（19年度第3冊／2008年3月刊行）

- （論文）綿田稔「自牧宗湛（中）」
 （論文）相澤正彦「土佐光吉と大画面絵画」
 （論文）張辰城（石附啓子訳）「朝鮮後期古董書画収集熱の性格
 —金弘道の《布衣風流図》と《土人肖像》に対する検討—」
 （研究資料）江村知子「土佐光吉筆『曾我物語図屏風』について」

『無形文化遺産研究報告』（⑥無04-07-2/5：無形文化遺産部出版関係事業の一環として実施）

無形文化財や無形民俗文化財、文化財保存技術に関する研究論文、調査報告、資料翻刻等を掲載している。

『無形文化遺産研究報告』第2号

- 宮田繁幸「無形文化遺産保護における国際的枠組み形成2」
 森下愛子「『土型』の保存とその公開について
 —伝統的陶芸技術の公開と普及の方法—」
 深津（福岡）裕子「染織工芸技術の変遷
 —葛布の製作技法と用途を事例として—」
 飯島満「国立音楽大学付属図書館寄贈 竹内道敬旧蔵音盤目録（2）」
 埋忠美沙
 「東京文化財研究所無形文化遺産部所蔵 歌舞伎舞台写真目録—昭和—」
 高桑いづみ
 「世阿弥自筆本の節付けを考える—『難波梅』から『盛久』・『江口』まで—」
 服部比呂美「庄内地方における雛祭りの飾り物—雛菓子と押絵雛菓子」
 大島曉雄「無形民俗文化財の『変化』を考える—特に文化財指定との関連で—」

